■ 展示計画

展示・収蔵への提案

●テーマ
- 展示テーマは道、旅、自然、信仰等
- 紀伊山地の霊場と参詣道を通じ、紀伊半島の自然、歴史、文化を紹介
- 古道の歴史資料、文献、古書物等展示
- 巡礼、巡行者に関する資料展示
- 参詣道、霊場に関する展示（三県分）
- 古道の文化、歴史等民族学の紹介
- 古道域の産業、暮し、自然の紹介
- 身近な古道博物館とする
- 全古道ルート、伊勢から熊野三山までの紹介
- 古道を歩くための知識を得、ふれる、参加するといった体験型展示
- 古道に関する歴史的人物等の紹介
- 古道本来の紹介や石だたみ等土木的紹介も出来る

●資料収集・収蔵
- 熊野学、紀伊山地に関する蔵書
- 日本、世界の古道、参詣道の資料収集
- 古道の歴史、文化の展示収蔵（古典、文学、日記、俳句、浮世絵、等）
- 古道に関する国内、世界の資料収集
- 古道域の自然（植物等）の生きた資料（標本）

●設備
- 画像や自分で学習できるシステム構築
- 展示は分野別に分け、入れ替え出来る
- 本物でない展示はミニチュア、レプリカ、写真、コピー、拓本等で計画
- アミューズや目新しさで展示計画しない事

●運営
- 博物館機能を主とし、他の博物館との連携（連携時の展示場所確保、輸送、保安機能）
- 市民活動メンバーによる写真や展示物
- 展示物は購入、頂く、みんなで集める、作り上げるもの等様々にある
- 最初から完成品ではなく、創り上げていく
- 展示として集客力のある企画が必要
- 近隣の博物館ネットワークをつくる（三県を主として全国）

研究・保存機能の方向性

- ●紀伊山地の霊場と参詣道の紹介
- ●古道域の歴史、文化、暮し、自然を紹介
- ●古道を歩くために知識を得る場
- ●古道＋熊野学の展示収蔵
- ●小さくてもきらりと輝く博物館
- ●皆が参加し、創り上げていく展示
- ●陳腐化する大掛かりなものは作らない

展示・情報発信計画

- 古道域の歴史、文化、暮し、自然を展示（古典、文学、日記、俳句、浮世絵、人物等
- 世界遺産としての紹介（世界の古道、他の世界遺産等）
- 歴史系、自然系に分類した展示企画（古道＋熊野学）
- 古道と海に関する歴史的資料も展示
- 古道の石だたみ等土木的価値も展示紹介
- 全ての来館者にわかりやすい展示＋会話（体験型）
- 古道を巡礼、巡行した人物や身なり、持ち物等紹介
- 本物でなく、展示物はミニチュア、レプリカ、写真、コピー、拓本等
- ふれる、参加するといった体験型展示企画
- 古道の環境を企画演出（陰、陽、雨、日差し、風、汗、命がけ等）
- 古道のミニチュアマップや古道の四季の映像等計画
- 展示しやすい展示物の管理しやすい計画
- 展示は常設展、特別展、企画展、地域活動メンバー展を含め、周期的に入替えを計画（集客力アップ）

収蔵計画

- 収蔵物の管理や作業性の高い計画
- 収蔵物の分類、寸法、ものを考慮した収蔵計画
- 収蔵物と展示の割合いは収蔵物10に対して、展示1が基本
- 古道＋熊野学の様々な資料収蔵

展示、収蔵物の調査、収集、運営計画

- 資料収集のための専門メンバーを組織
- 県外へ流出している古道関係資料の入手
- 市民活動メンバーとの協働による調査、収集
- 知識はもとより展示やわかりやすい説明が出来る、人員の配置

研究・保存機能整備活用委員会で検討